



**令和4年度第3回
東区まちづくり懇話会
報告書**

令和5年（2023年）1月13日
（株）調べ考房

1. まちづくり懇話会ワークショップの設計

(1) 懇話会開催の背景

平成25年（2013年）3月策定の「熊本市東区まちづくりビジョン」を見直すための基礎資料を得るために、区民を対象とした懇話会を行なった。

(2) ワークショップの開催目的

「熊本市東区まちづくりビジョン」に掲げる「めざす区の姿」「基本方針1～5」及び各方針の重点的テーマを見直す時に必要となる、区民の「こんなまちにしたい」という思い（ニーズ）を質的観点から明らかにする。

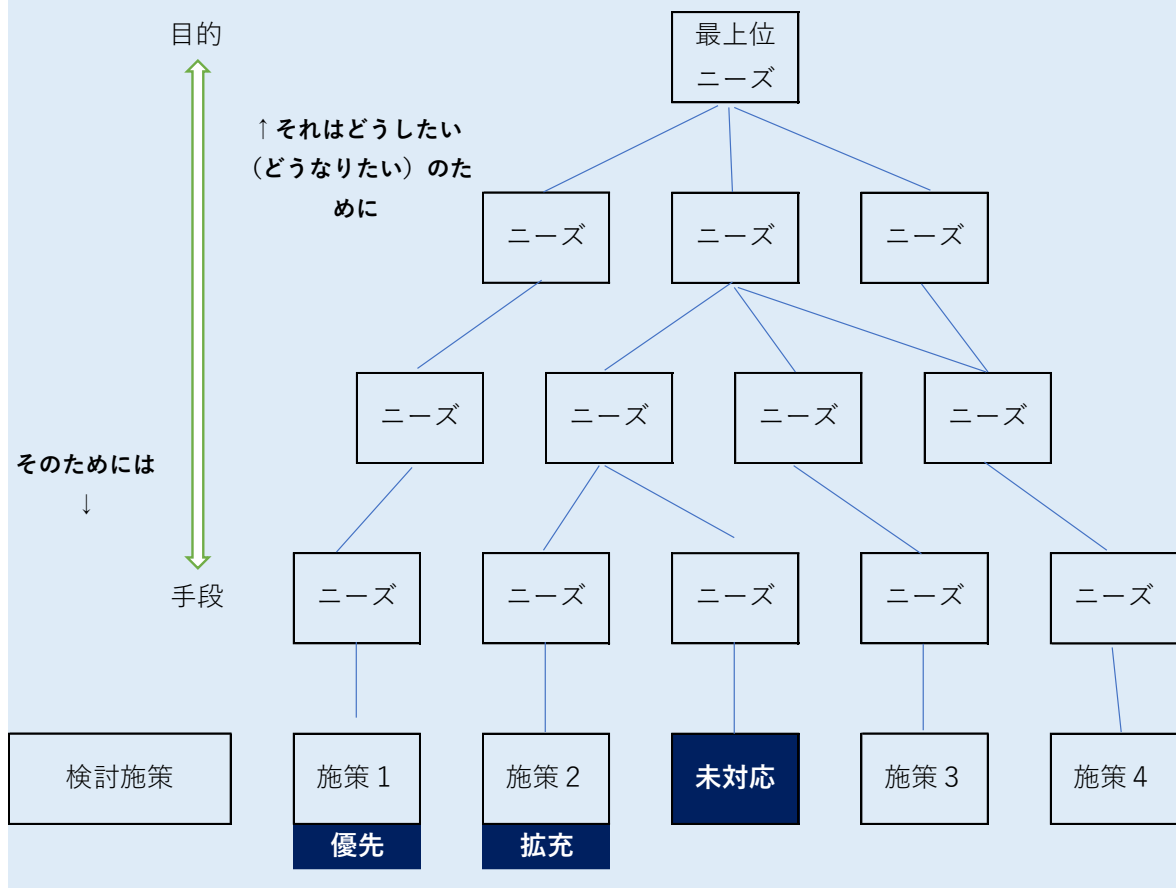
(3) ワークショップ結果の今後の利用方法

ニーズが手段と目的の関係で整理できるという特徴を生かして、区民の「こんなまちにしたい」という思い（ニーズ）の体系図（層構造）を作成。層構造として明らかになった各ニーズの強さと未充足度合いを推定し、未充足度合いの高いニーズに対応していくことを目的に、「めざす区の姿」「基本方針1～5」及び各方針の重点的テーマ等を見直す。また、上記の懇話会から得られる情報から、今後東区のまちづくりを進める上での促進要因と阻害要因を整理する。

(4) 懇話会から得られた情報を分析するための課題

- まちづくりに関する区民のニーズの層構造を明らかにし、主なニーズに対応する取組み（充足手段）と、その生活上の問題点を明らかにする。
- まちづくりに関する取組みの満足点（まちづくりの促進要因）と不満足点（同阻害要因）と、それがもたらされた要因を明らかにする。

■ ニーズの構造的な整理と対応する施策の検討イメージ



(5)懇話会の開催方法

<座談会の実施>

- 令和4年（2022年）12月7日午後2時から懇話会委員を対象に座談会を開催（会場：秋津まちづくりセンター大会議室）。参加する区民18人を3グループに分け、以下の各グループにモデレーターを配置し座談会を行なった。

グループA…女性グループ

グループB…49～65歳の男性グループ（専門職が多い）

グループC…67歳以上の男性グループ

- 市職員と県立大学の学生は、上記3グループに分かれ、観察者として座談会の発言内容（区民のニーズは何か、満足の内容、不満の内容、それらがもたらされた要因が何か）を聴き取ることに専念する。

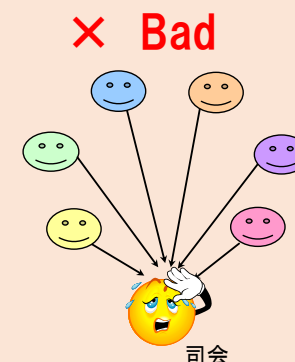
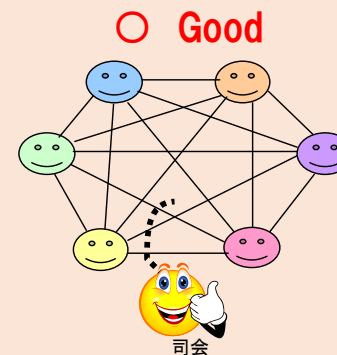
<分析会の実施>

- 令和4年（2022年）12月21日午後2時から、市職員と県立大学生の有志による分析の作業部会を開催（会場：秋津まちづくりセンター大会議室）し、ニーズの体系図作成と課題抽出を行なった。

(6)座談会の方法

- フォーカスグループインタビュー法によって座談会を実施する。この方法は、目的に応じて設定されたテーマについて、少人数で井戸端会議のようなディスカッションを行いながら進行し、参加者が互いに影響しあう場面を作り出すことで討議を促したり、仮説の検証などを行うようにして実施する。

- ✓ 司会者は「はい」「いいえ」等の反応を得る質問形式を得る進め方ではなく、話題をなげかけて自由な反応を得るよう心掛けながら話を進行します。



(7) インタビューフロー (120分)

- 会場に、「熊本市東区まちづくりビジョン」概要版を用意。特に座談会出席者は各自一枚ずつ概要版を手元に置いて置く。
- 話し合いを活性化させる意図で、概要版の「基本理念とめざす区の姿」のイメージ図に注意を向けてもらう。
- 基本方針1～5と各重点的テーマについては、カード状にしておく。
- ①～⑤のお題から、活発な話し合いを行なってもらい、まちづくりに対する「ニーズ」を引き出していく。

➤ インタビュー時のルール説明及び出席者自己紹介 (15分程度)

① うまくいっていると思う「重点的テーマ」、あまりうまくいっていないと思う「重点的テーマ」に、自由に話し合いをしながらグループ分けしてください。(15分程度)

- ✓ 分けているときの発言内容（本音の発言が多い）は重要なので注意深く聴く。

【適宜確認】

- 重点的テーマの位置づけ、課題がありそう、なさそうの理由に注意する。
- 基本方針や重点的なテーマと関連する日常生活上の課題を把握する。

② グループ分けが終わりました。「うまくいっていると思う」に位置付けられたわけ、「あまりうまくいっていないと思う」に位置付けられたわけ、「どちらともいえない、わからない」に位置付けられたわけを、どんな言い方でもよいので、皆さん同士で話し合いをしてください。(40分程度)

- ✓ 「基本方針」ごとに繰り返す。

【適宜確認】

- ちょっとでも気になること、もっとこうなるとよいこと、不満なこと
- あるとしたら、それは何か？ その理由

③ うまくいっていないほうの位置づけで、優先して取り組んだ方がよいものについて、皆さん同士で話し合いをしてください。(15分程度)

【適宜確認】

- なぜ優先してとりくむ必要があるのか？

④ これから先、10年後の東区の姿 こんな東区であってほしいを自由に話してください。(15分程度)

- 話を聴いていた大学生と職員も座談会に参加する。

⑤ 大学生と職員の方にお聞きします。今のお話を聴かれていて、思ったことを自由にお話してください。(10分程度)

【適宜確認】

- ちょっとでも気になること、もっとこうなるとよいこと、不満なこと
- あるとしたら、それは何か？ その理由

2. グループ別のニーズ構造

(1)グループA（女性グループ）

最上位ニーズは、

「心と身体健康は切り離せない。心も身体も健康でいられる応援しあえるまちで暮らしたい。何事もそこ任せにしないまちで暮らしたい。」となった。

最上位ニーズを構成する基本ニーズは、

- ①「子ども達がのびのび育つまちで暮らしたい。」
- ②「人とふれあう機会や場所がたくさんあるまちで暮らしたい。世代間交流が活発なまちで暮らしたい。」
- ③「高齢者も安心して暮らせるまちにしたい。」
- ④「震災など何かあったら集まれる安心感のあるまちで暮らしたい。」

となっている。

つまり、子どもと高齢者を大事にし、人とふれあう機会や場所がたくさんある世代間交流が活発なまちであり、しかも震災などがあったときは集まって支え合うまちが望まれていることがうかがえた。

①「子ども達がのびのび育つまちで暮らしたい。」を実現するための課題

（子どもの居場所づくり）

- ・ 学校以外で子どもが活動できる機会、居場所、学べる場
- ・ 子ども会の活性化と、子ども会に入っている子とそうでない子の待遇格差の是正
- ・ 地域活動への子どもと親の積極的な参加
- ・ 清掃されて安心して遊べる児童公園の整備と維持・管理

（子どもの対する性教育、危険物等教育の充実）

- ・ 中学生や小学生に対する薬物の危険性を伝える取組み
- ・ 小学生からの性教育の徹底など子どもの育成環境と健康づくり

②「人とふれあう機会や場所がたくさんあるまちで暮らしたい。世代間交流が活発なまちで暮らしたい。」を実現するための課題

（ふれあい、挨拶運動）

- ・ 笑顔あふれるふれあいと学びの場があるまちづくり
- ・ 挨拶が行き交い笑顔あふれるまち通学路づくり
- ・ 向こう三軒両隣の間を大切にしたいまちづくり

（世代間の交流促進）

- ・ コロナ禍前のような学校、PTA、子どもたちとの交流促進
- ・ 地域の行事への家族連れの参加促進
- ・ 同世代だけでなく高齢者だけの世帯との交流促進

（地域活動団体の活性化）

- ・ 子ども会の魅力についての理解促進
- ・ 共働き家庭の地域行事への参加促進
- ・ 団体同士の横の連携の促進
- ・ 地域の活動への多種多様な人々の参加促進
- ・ 借家住まいでの人たちの自治会への参加促進
- ・ 自治会と子ども会との連携強化
- ・ 民生委員、食改さん等の認知度向上

(地域活動の人材育成)

- ・ 地域活動を担う後継者の育成
- ・ オヤジの会の活性化と参加促進
- ・ 経験豊かな高齢者が若い人を育てるまちづくり

(公園や史跡、共有スペースの維持管理と整備)

- ・ 朝昼夜いろんな世代が利用する公園の整備
- ・ 地域の歴史を大切にするまちづくり
- ・ ゴミステーションをみんなで守るまちづくり

(行政の対応と仕組みづくり)

- ・ 頑張れば住民の声が届くまちづくり

③「高齢者も安心して暮らせるまちにしたい」を実現するための課題

(買い物で困らない環境整備)

- ・ 歩いていける範囲内での買い物環境の整備

(対面で情報交換ができる環境整備)

- ・ ネット社会が進んでも、対面の情報交換ができるまちづくり
- ・ 紙、SNS等いろんな手段で情報が届くまちづくり
- ・ 地域行事関係の情報網の整備
- ・ 高齢男性の地域行事への参加促進

(一人暮らしや認知症でも困らない環境の整備)

- ・ 高齢になっても自宅で一人暮らしができる環境の整備
- ・ 高齢で一人暮らしになっても、いろんなサービスを利用できる環境の整備
- ・ 自分が認知症になっても安心できる体制及び環境の整備

(公共交通機関の整備)

- ・ 病院に行きやすい、学校に行きやすい交通網の整備
- ・ 中心部方面だけでなく横にもものびる公共交通機関の整備

④「震災など何かあったら集まれる安心感のあるまちで暮らしたい」を実現するための課題

(道路や河川の整備)

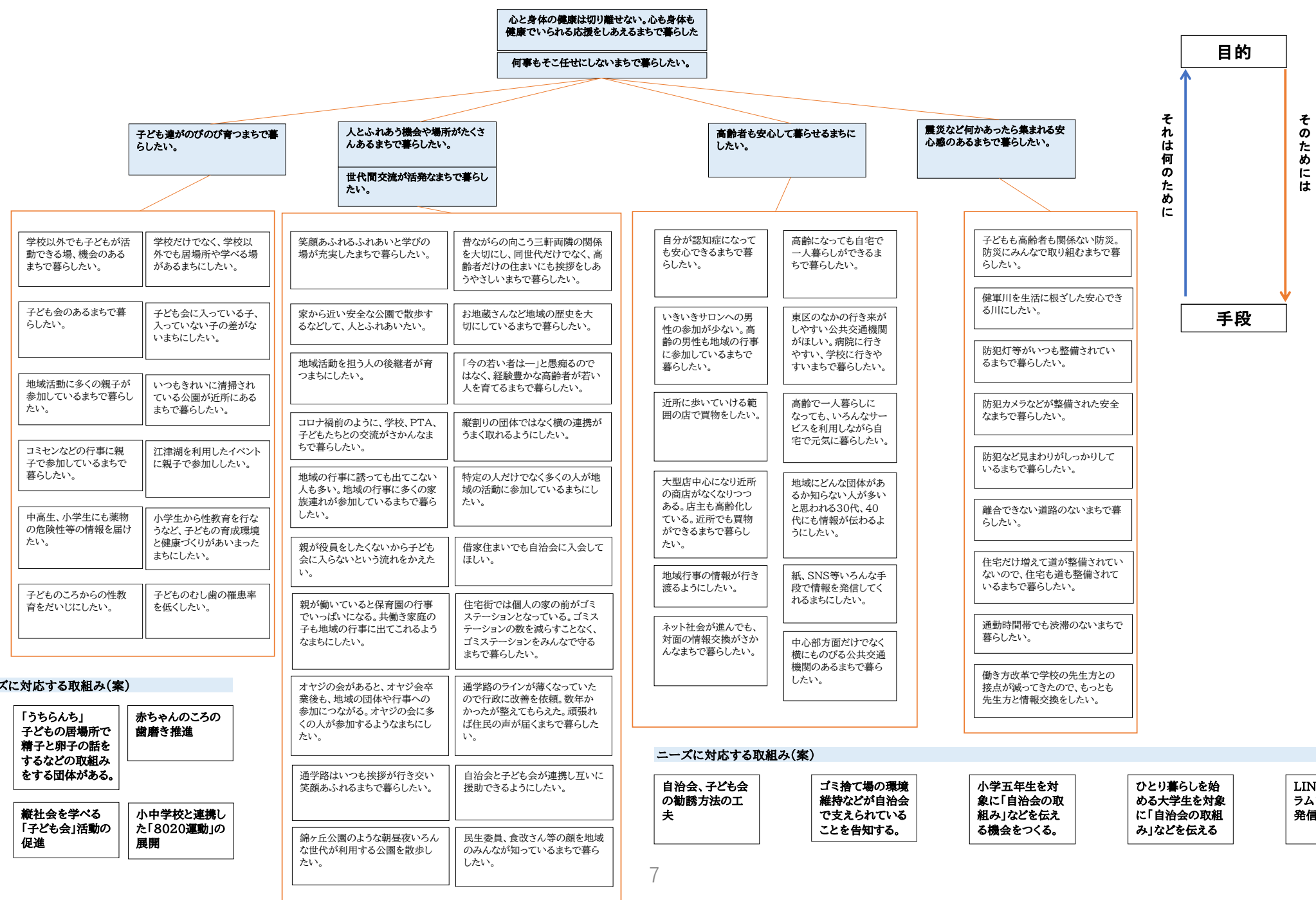
- ・ 通勤時間帯でも渋滞のないまち
- ・ 安心して離合できる道路の整備
- ・ 宅地増加に対応した道路の整備
- ・ 生活に根ざした安心できる健軍川の整備

(防犯・防災の体制の整備)

- ・ 防災にみんなで取り組むまちづくり
- ・ 防犯灯等や防犯カメラの整備
- ・ 見まわり活動の推進

(保護者と学校の先生との交流促進)

- ・ 保護者と学校の先生との間の情報交換の促進



(2)グループB (49～65歳の男性グループ)

最上位ニーズは、

「東区で暮らす人たちがずっと住みたいと思うようなまちで暮らしたい。」
となった。

最上位ニーズを構成する基本ニーズは、

①「地域の自然、地域の歴史・文化、まちの美化活動など、東区の強みを大事にするまちで暮らしたい」

②「交通安全、防犯、子育て、健康など安心安全なまちで暮らしたい」

③「せっかく移り住んでもらった外国人からよい評判をとりたい」

となっている。

つまり、地域の自然、地域の歴史・文化、まちの美化活動など、東区の強みを大事するまちであり、そんなまちづくりのベースとなる交通安全、防犯、子育て、健康など安心安全なまちづくりを望んでいることがうかがえた。また、近年の大きな動きであるTSMCの進出などによる外国人の増加に対応した外国人からよい評判をとる多文化共生のまちづくりのニーズが示されたのが大きな特徴となっている。

①「地域の自然、地域の歴史・文化、まちの美化活動など、東区の強みを大事にするまちで暮らしたい」を実現するための課題

(東区の強みを活かしたまちづくり)

- ・ 地域の自然、地域の歴史・文化など東区の強みをいかした経済の活性化
- ・ 江津湖の朝夕の景観など東区の強みをいかした国内外の人がうらやむようなまちづくり

(子ども目線、清潔、集まりやすい公園の整備・維持・管理)

- ・ 子ども目線で管理されている公園の整備
- ・ 草取りや犬や猫の糞の処理などが行われたきれいで清潔な公園の維持・管理
- ・ きれいで集まりやすい公園の整備・維持・管理

(地区内の清掃やボランティア活動の推進)

- ・ 道路やゴミ捨て場にゴミが散乱していない生活環境の整備
- ・ 地区内の清掃や自発的なボランティアの活性化
- ・ 清掃活動など地域活動の様子をインターネットで発信する取組みの促進
- ・ 大規模な清掃ボランティアの募集告知の展開

②「交通安全、防犯、子育て、健康など安心安全なまちで暮らしたい」
を実現するための課題

(安全安心を実現するための取組みの推進)

- ・ 交通安全、防犯、子育ての育成環境、健康づくりの取組み推進

(地域福祉活動の推進)

- ・ 自治会、子ども会、民生委員活動など福祉のまちづくりの推進
- ・ 災害など危機的状況に対応するため日ごろから近所付き合いの推進
- ・ 大規模災害だけでなく高齢者の徘徊や子どもの事故などにも目を配るまちづくり

(地域活動のための補助金の積極活用)

- ・ 潤沢にある地域活動のための補助金を積極的に活用

(インターネットやSNSを活用した地域活動の展開)

- ・ インターネットやSNSを使った地域内や隣近所のつながり強化
- ・ インターネットやSNSを活用した地域活動への参加促進策の展開
- ・ 市政だよりを読まない人たちへの告知方法の検討・開発
- ・ ゴミ分別アプリがあることの周知徹底
- ・ 観るとお得な情報が得られるメールの提供
- ・ 区役所の情報が流れるアプリのお天気情報の開発
- ・ 避難場所の場所をわかりやすく伝える方法の検討

(若い世代を対象とした地域活動加入策の推進)

- ・ 高校生や大学生を対象とした地域づくりへの参加促進策の展開
- ・ 地域の懇親会やどんど焼きなど顔見知りのきっかけづくりの復活
- ・ 少人数の防災訓練など顔見知りのきっかけづくりの推進
- ・ 子どもが集まる行事の積極開催による地域活動の活性化
- ・ 日々の生活に自治会への加入が必要なこと、入っていないことのデメリットを周知

(地域活動の先進事例の収集促進)

- ・ SNSなどを活用した地域のつながりを強化する先進事例の収集
- ・ 地域活動からの脱会を防ぐための先進事例の収集

(自治会費の徴収方法の刷新)

- ・ 自治会費の徴収を個別訪問から振込への転換促進

③「せっかく移り住んでもらった外国人からよい評判をとりたい」 を実現するための課題

(多文化共生のまちづくり)

- ・ TSMCの進出などにより外国人の増加に対応したまちづくり
- ・ 外国人などマイノリティーの人たちの考え方に配慮した多文化共生のまちづくり
- ・ 外国語で書かれたゴミの分別ルールの配布



ずっと東区に住み続けたい。

東区で暮らす人たちがずっと住み続けたいと思うようなまちで暮らしたい。

治安がよさそうなまちで暮らしたい。

交通安全、防犯、子育て、健康など安心安全なまちで暮らしたい。

せっかく移り住んでもらった外国人からよい評判をとりたい。

TSMCの進出などにより外国人の増加に対応したまちで暮らしたい。

外国人などマイノリティーの人たちの考え方に配慮した多文化共生の自慢できる東区で暮らしたい。

地域の自然、地域の歴史・文化、まちの美化活動など、東区の強みを大事するまちで暮らしたい。

きれいで美しい自然環境の中で暮らしたい。

地域の自然、地域の歴史・文化など東区の強みをいかした経済の活性化を図る取り組みを広げていきたい。

江津湖の朝夕の景観など東区の強みをいかした国内外の人たちがうらやましく思い住みたくなるまちで暮らしたい。

道路やゴミ捨て場にゴミが散乱していない生活環境の行き届いたまちで暮らしたい。

子ども連れで遊ぶのに困らないまちで暮らしたい。

太極拳など健康づくりのイベントに住民が集まってくるような知り合う場となる、きれいで集まりやすい公園のあるまちで暮らしたい。

子ども目線で管理されている公園で子どもを遊ばせたい。

地区内の清掃とか自発的なボランティアが活発に行われている地域で暮らしたい。

草取りや犬や猫の糞の処理などが行われたきれいで清潔な公園で子どもを遊ばせたい。

清掃活動など地域活動の様子をインターネットで発信し、同じ地区に住む人たちに伝えたい。

交通安全、防犯、子育ての育成環境、健康づくりに一生懸命取り組んでいるまちで暮らしたい。

地域で活動している団体やボランティアのことをより多くの住民に伝えたい。

自治会、子ども会、民生委員活動などが活発で福祉のまちづくりが盛んなまちで暮らしたい。

災害など危機的状況に対応するため日ごろから近所の人と知り合いになっていきたい。

大規模災害だけでなく高齢者の徘徊や子どもの事故などにも目を配るまちで暮らしたい。

潤沢にある地域活動のための補助金を積極的に活用して、地域活動を活性化したい。

インターネットやSNSを使って地域内や隣近所の横のつながりを広げていきたい。

高校生や大学生を地域づくりに誘いたい。

コロナ禍で中止になった地域の懇親会やどんど焼きなど顔見知りのきつかけづくりを復活したい。

役員になりたくなくて地域活動をやめる人が多く、これらを防ぐ仕組みや先進事例を知りたい。

子どもが参加すると親もついて来るので、子どもが集まる行事を積極的に開いて地域活動を活性化したい。

SNSなどで地域を越えたつながりを持つ人たちのネットワークを生かして先進事例の取得など地域のつながりを強化する情報を得たい。

老若男女、いろんな人が地域活動に参加してもらうために、インターネットやSNSで積極的に地域活動を発信する機会をつくりたい。

大がかりの催しがダメなら少人数の集まりでもいいから防災訓練など顔見知りのきつかけづくりを行いたい。

うまくいっている地域活動や自治会の事例を集めて自分たちの地域の在り方を考えてみたい。

会費徴収は大変で戸別訪問は危険を伴うので、自治会費の徴収を振込にしたい。

ニーズに対応する取組み(案)

大規模な清掃ボランティアの募集告知

市政だよりを読まない人たちへの告知方法の検討・開発

ゴミ分別アプリがあることの周知徹底

日々の生活に自治会への加入が必要、入っていないデメリットを周知

観るとお得な情報が得られるメールの提供

アプリのお天気情報に区役所の情報も伝えるようにする。

避難場所の場所をわかりやすく伝える方法を検討する。

子ども会の設立促進。

外国語で書かれたゴミの分別ルールの配布

目的

手段

それは何のために

そのためには

(3)グループC (67歳以上の男性グループ)

最上位ニーズは、

「明日は我が身。孤独死などのないつながりのある地域で安心して暮らしたい。」となった。

最上位ニーズを構成する基本ニーズは、

- ①「東区全体で盛り上がる健康づくり運動を起こしたい」
- ②「寝たきりではなく元気で百歳まで生きたい」
- ③「デイサービスだけしか外に出ない引きこもりの人たちを何とかしたい」
- ④「声かけ見守りがしっかり行われた地域で安心して暮らしたい」
- ⑤「地域で心を一つにできるものを見つけたい」

となっている。

つまり、寝たきりではなく元気で百歳まで生きたいし、孤独死とかで最後を迎えたくないという強い思いを持っている。そのために健康づくり運動、引きこもりの人たち対策、見守りが行われている地域で安心して暮らしたいと思っており、そのための基盤となる地域で心を一つできるものを見つけたいと願っていることがうかがえた。また、そんな安心できる環境の中で子どもたちが無心に遊ぶ姿を眺めて過ごすという理想像も思い浮かべている。

- ①「東区全体で盛り上がる健康づくり運動を起こしたい。」

を実現するための課題

(散歩している人たちの横のつながりの構築)

- ・健康づくり運動の展開による思い思い自分の時間で散歩している人たちの横のつながりの構築

- ②「寝たきりではなく元気で百歳まで生きたい」を実現するための課題

(付き合いのない人たちの減少策の展開)

- ・隣近所と付き合いのない人たちを減少させる取組みの開発の展開
- ・毎朝のラジオ体操など隣近所の集まりへの引きこもりの高齢者の勧誘

- ③「デイサービスだけしか外に出ない引きこもりの人たちを何とかしたい」を実現するための課題

(引きこもりに対応した高齢者サロンづくり)

- ・デイサービス以外のおときはテレビばかり観ている高齢者が集まって来る空間づくり
- ・地域の引きこもりの人たちが行ってみたくなるような魅力的なサロンづくり
- ・引きこもりに対応した高齢者サロンの運営方法の工夫

- ④「声かけ見守りがしっかり行われた地域で安心して暮らしたい。」を実現するための課題

(地域の団体の活性化)

- ・交通安全協会や防犯協会による安心安全な通学路の確保
- ・地域の団体が横につながっている自治協議会の活性化
- ・自治協議会に対する補助金の増額
- ・東区内の自治協議会会長で構成する会議の開催

(段差のない安全な生活道路や商店街の整備)

- 車道と歩道が分離された段差のない安全な生活道路の整備
- 段差のない安全な商店街の整備
- 土木センターによる段階解消の推進

● 「地域で心をつなぐことができるものを見つけたい。」を実現するための課題

(子どもを見守る体制づくり)

- 元気な子どもたちを見守る隣近所の寄り合い所帯のようなまちづくり
- 子育てサロンの活性化
- 竹トンボなどの伝承遊びを伝える機会の創出

(まちなかの貴重な自然の保全と活用)

- まちのなかにある貴重な大自然である江津湖の保全
- 江津湖の清掃と除草活動の推進
- 江津湖周辺の治安及び防犯の推進
- 託麻三山八十八カ所巡りの推進
- 文化財を活用した地域活性化策の検討

(小学校区内の安全安心の確保)

- 山もない、川もない、海もないけど、災害もない小学校区づくり
- 防火訓練の定期的な実施
- LINEを活用した川の増水や避難所開設の迅速な情報提供
- 大学生による地域でのLINEやパソコンの使い方教室の開催



明日は我が身。孤独死などのないつながりのある地域で安心して暮らしたい。

東区全体で盛り上がる健康づくり運動を起こしたい。

寝たきりではなく元気で百歳まで生きたい。

デイサービスだけしか外に出ない引きこもりの人たちを何とかしたい。

声かけ見守りがしっかり行われた地域で安心して暮らしたい。

緑に囲まれた公園で子どもたちが無心に遊ぶ姿をながめて過ごしたい。

公園で子どもたちが元気で遊んでいる姿を眺めていたい。

思い思い自分の時間で散歩している人たちの横のつながりをつくりたい。

隣近所と付き合いのない人たちを減らしたい。

毎朝のラジオ体操など隣近所の集まりに引きこもりの高齢者を誘いたい。

デイサービス以外のときはテレビばかり観ている高齢者が集まって来る空間をつくりたい。

地域の引きこもりの人たちが行ってみたくなるような魅力的なサロンをつくりたい。

引きこもりや隣近所とつながりのない人たちをなくしたい。

痴漢やいたずらなどのない安全なまちで暮らしたい。

交通安全協会や防犯協会が頑張っている安心安全なまちで子どもを通学させたい。

地域の団体が横につながっている自治協議会を大事にしたい。

車道と歩道が分離された段差のない安全な生活道路で通学させたい。

段差のない安全な商店街で買い物したい。

地域で心を一つにできるものを見つけたい。

元気な子どもたちを見守る隣近所の寄り合い所帯で暮らしたい。

コロナ禍前のように子育てサロンの手伝いで子どもと交流したい。

子どもたちに竹トンボなどの伝承遊びを伝えたい。

託麻三山八十八カ所巡りを今以上に盛り上げたい。

まちのなかにある貴重な大自然である江津湖を大事にしたい。

江津湖の清掃と除草活動を今以上に盛んにしたい。

ドロボーとかが出没しない安全な上江津湖を散策したい。

い夜も安心できる散策路を利用したい。

山もない、川もない、海もないけど、災害もない小学校区で安心して暮らしたい。

防火訓練が定期的に行われるいざという時に安心できるまちで暮らしたい。

川の増水や避難所開設の情報をLINEでいち早く地域の人に伝えたい。

大学生にLINEとかパソコンの使い方を習い地域活動に活用したい。

目的

手段

それは何のために

そのためには

ニーズに対応する取組み(案)

高齢者サロンの運営方法の工夫(引きこもりへの対応)

自治協議会への補助金の増額

東区内の自治協議会会長による会議の開催

土木センターによる段差解消の推進

老人会との連携による昔あそびの体験の推進

郷土文化財を活用した地域活性化策の検討

3. まとめ

井戸端会議のような雑談会形式での話し合いが行われたことから、格式ばった発言ではなく、より生活実感に近い心に響く発言が得られたと思われる。

グループA（女性グループ）では、学校以外での子どもの居場所づくりの重要性が指摘されているほか、**子どもの性教育や薬物の危険性を伝える取組みの必要性**が言及されている。このことは中学生を中心にかなり深刻な状況があるという発言がなされており、喫緊の課題であると思われる。このほか高齢者が安心して暮らせるための買い物環境や公共交通機関の整備、宅地の増加に対応していない狭い道路の存在などの課題が指摘されている。「**頑張れば住民の声が届くまちづくり**」という発言も行政の在り方を示す重要な発言だと思われる。

グループB（49～65歳の男性グループ）では、江津湖の朝夕の景観など他の地域にはない東区の強みに着目したまちづくりの提案のほか、子ども目線の公園整備、インターネットやSNSを活用した地域活動の具体的な取組み、若い世代を対象とした具体的な地域活動加入策などの

提案が行われた。**強みという戦略用語からの視点、SNS等の具体的な活用方法は、これまでのビジョンになかった視点**であると思われる。

また、TSMCの進出による近年の社会経済環境の変化への対応についても言及されており、**外国人などマイノリティーの人たちの考え方に配慮した多文化共生のまちづくり**は重要な視点である。「国内外の人がうらやむようなまちづくり」という視点もシビックプライドの背景にある考え方であり、東区に住み続けたいと思う人たちを増やしていくことにつながっていくと思われる。

グループC（67歳以上の男性グループ）では、「**地域で心をついできるものを見つけない**」というまちづくりの重要な視点が言及されている。そのために、子どもを見守る体制づくりや江津湖の保全と託麻三山八十八カ所巡り、山もない、川もない、海もないけど災害もない小学校区づくりということが言及されている。

地域で心をつくるため、引きこもりの高齢者に対する取組み、東区全体で盛り上がるための健康づくり運動の展開なども提案されている。